

科目名	研究ゼミナール4	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	佐々木 宏之		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-3-410041	経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること			
授業の目的・テーマ	<p>心理学は、情報、経営のいずれとも関わりの深い領域である。たとえば、使いやすい情報システムを設計するためには人間の基本的な認知特性を理解する必要がある。また、組織の運営には人間の社会場面での振る舞いを理解する必要がある。本研究室ではこうした人間の様々な心や行動のはたらきとそのしくみを科学的、客観的に分析する方法について学ぶ。</p> <p>卒業研究4では、実験・調査の実施、研究成果の報告をとおして、研究室のメンバーと自分自身の研究の内容について議論することにより、実験や調査の方法、データ分析の方法を洗練させるとともに、研究成果をわかりやすく論文や発表の形式で伝える技術を磨く。</p>				
内容	<p>卒業研究をとおして論理的・批判的な思考能力を養う。</p> <p>①実験・調査の実施 各研究計画に基づいて、実験・調査を行い、データ収集を図る。</p> <p>②研究の進捗状況についての報告 実験・調査で得られた結果の進捗状況をまとめて、Power Pointによるプレゼンをおこなう。</p> <p>発表スライドは、タイトル・目的・仮説・方法・結果・考察から構成される。</p> <p>発表や発表資料の内容について、研究室のメンバーが全員で議論し、よりわかりやすく伝えるための提案をする。</p>				

学修到達目標	自ら問題を設定し、問題を解決するための情報収集能力や実験遂行能力、データの統計的解析能力を養う。さらに、得られた実験成果を論文にまとめ、発表する能力を育成する。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	1時間（関連研究の調査）
【復習】時間・内容	1時間（実験・調査計画の見直し）

成績評価	
評価基準・方法	【成績評価】実験・調査への取り組み（80%）、研究内容（10%）、進捗状況の発表（10%）
フィードバック方法	個別に相談する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート

教科書/参考書	
---------	--

受講上の留意点等	特になし。
JABEE	関連する学習・教育到達目標 : F

科目名	研究ゼミナール4	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	今井 裕紀	実務経験の有無		×	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-3-410041	経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること			
授業の目的・テーマ	経営における人と組織				
内容	<p>本ゼミナールでは、人と組織に関する経営課題、社会課題に関連したテーマを各自が設定し、調査・分析の実施、結果の考察などの一連の研究プロジェクトを遂行できるようになることを目指します。</p> <p>研究対象分野は経営学における、人間の行動や、経営組織のマネジメントについての研究です。この分野における研究の例としては、ワークライフバランスの実現や、多様な人材の活躍推進およびキャリア形成支援、職場定着支援、ストレス、動機づけなどが挙げられます。また、企業の経営行動、経営に関連した社会課題などを研究の対象に含めることも可能です。</p> <p>指導可能な研究の方法は主に次の2つです。  1) 公開資料にもとづく調査、分析（白書、有価証券報告書、政府統計や各種報告書などを用いた分析）  2) アンケート調査（心理、社会心理、組織心理などに関連する内容を調査し、統計解析する）</p> <p>進め方は以下のようになります。  ①社会科学における基本的な研究の方法論について学ぶ。特に統計の基本的な使い方を実習形式で学ぶ。  ②研究テーマを設定する。  ③研究テーマに関連する社会、産業、労働市場等の動向について幅広く整理する。  ④研究テーマに適した調査を行い、分析する。  ⑤分析結果について考察する。</p> <p>統計については、別途テキストを指定します。  レポート、発表、面談を適宜実施します。</p>				

学修到達目標	テーマ設定、調査・分析の実施、結果の考察などの一連の研究プロジェクトを遂行できるようになる
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の研究に必要な調査、分析、考察等を行う。</li> </ul> 必要時間数：2時間
【復習】時間・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の研究に必要な調査、分析、考察等を行う。</li> <li>・授業での意見交換の結果を踏まえて考察する。</li> </ul> 必要時間数：2時間

成績評価	
評価基準・方法	クラスへの参加、ディスカッションへの貢献（40%）、発表（30%）、レポート（30%）
フィードバック方法	授業中に講評を行う。あるいはポータルサイトで講評を掲示する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート/プレゼンテーション

教科書/参考書	別途指定します
---------	---------

受講上の留意点等	組織行動論を履修していることが望ましい
JABEE	関連する学習・教育到達目標 : F

科目名	研究ゼミナール4	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	小宮山 智志	実務経験の有無		×	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-3-410041	経営情報学部C：情報や情報システムの利活用方法を習得し、仕事や生活に活用できること			
授業の目的・テーマ	<p>人々の行動や考え方を“人と人の関係（社会）”に着目して“研究”することを目的とします。また社会でもっとも求められている「集団で目標を達成する能力」をお互いに協力して高めます。</p> <p>「学校」が既存の情報・知識を覚えるところであるのに対し、「大学」とは、新しい情報・知識を創造する（＝研究する）能力を身につけることです。人々について新しい情報を創り出すには、他者の視点を取り入れる必要があります。社会で役立つ卒業研究を行うために、そして卒業後、活躍するためにゼミの仲間や、さまざまな人々と協力することを学びます。研究例を一つ紹介します。</p> <p>研究例：ある食品メーカーの製品では、アレルギー表示がパッケージの前面に「アイコン」で表示されています。このアイコンは、単にアレルギーを持っている方だけでなく、消費者一般に製品の安全・安心感を伝えることができ、購買を促進していることを明らかにしてくれました。紅翔祭で一般の方に2種類のパッケージを実際に見てもらい調査しました（彼はこのメーカーに就職しました）。</p> <p>*他にも小宮山のホームページ（<a href="http://www.nuis.ac.jp/~komiya/">http://www.nuis.ac.jp/~komiya/</a>）に研究例が紹介されています。</p>				
内容	<p>調査・分析等を行います。またお互いの草稿をテーマに、グループワークを行い、卒業研究を完成させます。また発表会の練習をとおしてプレゼンテーション能力を高めます。各月ごと、以下の予定で進めます。</p> <p>9月 調査・実験 7月に計画した調査・実験を9月中に、実施しデータ入力を終わらせます。</p> <p>卒業研究4の時間では、グループワークを通しての最終確認や、データ入力方法・チェック方法（データクリーニング）について学びます（9月末までにデータの提出）。</p> <p>10月 分析 分析結果を持ち寄り、グループワークを行います。疑似相関の可能性など、グループで討論し、全体で共有します。各自、グループの意見を参考に、分析をより良いものにします（10月末までに分析結果の報告）。</p> <p>11月 残りの章の執筆（11月23日仮提出 11月30日提出） 11月前半で、分析・結論などの残りの章の執筆を行います。各自草稿を交換して読み、アドバイスをします。 11月23日までに仮提出していただいたものにコメントします。11月30日には訂正して再度、提出してください。</p> <p>12月 論文訂正と発表資料の作成・発表練習 卒業研究発表会の発表資料作成と練習を行います。資料作成時に浮かんだアイデアなどを論文に盛り込み提出日に、提出します。12月中には発表資料を完成させます（その後、発表練習をする時間が必要です）。</p> <p>1月 発表会と振り返り 発表会に参加しての振り返りのグループワークで行います（振り返りシート提出）。</p>				

学修到達目標	1. 自分の研究が社会にどのような貢献・影響を及ぼすか考察してください。 2. 新しく、社会に役立ち、根拠のある情報を創りだしてください。 3. 情報システムを利用して研究する能力を身につけてください。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	約2時間：グループワークに応じた予習を行います。
【復習】時間・内容	約2時間：グループワークに応じた復習を行います。

成績評価	
評価基準・方法	各回のグループワークでの活躍（50%）と、毎月のレポートで評価します（50%）。グループワークでアイデアを出すことはとても重要です。それと同時に、各自でアイデアを文章にまとめる力も養います。どちらもイーブン（50%ずつ）で評価します。 共有フォルダで各自のレポートへのコメントを共有し、さらにグループワークを通して、フィードバックします。
フィードバック方法	共有フォルダで各自のレポートへのコメントを共有し、さらにグループワークを通して、フィードバックします。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	グループワーク

教科書/参考書	各自の研究内容に応じて、適宜、使用します。
---------	-----------------------



受講上の留意点等	<p>*ゼミにおいて無断欠席は認めません。全員に迷惑が及びます。可及的速やかに連絡してください。</p> <p>*虚偽の申告をした方は、単位の取得はできません。</p>
JABEE	関連する学習・教育到達目標 : F

科目名	研究ゼミナール4	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	佐々木 桐子	実務経験の有無		×	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-3-410041	経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること			
授業の目的・テーマ	シミュレーション				
内容	<p>研究対象システムのシミュレーションモデルの構築，実験，比較，分析をおこないます。研究の流れは以下のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 収集したデータをもとに研究対象システムのシミュレーションモデルを構築。</li> <li>② モデルの妥当性を検証。</li> <li>③ シミュレーション実験の計画と実行。</li> <li>④ 改善案（代替案）の比較・分析。</li> <li>⑤ 結果の発表およびドキュメント化。</li> </ol>				

学修到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現実の問題に対して、適切な道具（離散系シミュレーション言語）を適時的確に使うことができる。</li> <li>・問題解決プロセスを適用し、結果を正しく解釈し、研究成果を適切に表現することができる。</li> </ul>
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間
【復習】時間・内容	2時間

成績評価	
評価基準・方法	成果物（50点）、発表会（50点）により評価します。
フィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回進捗状況を確認し、適宜、修正、改善の指示をおこないます。</li> <li>・発表会の都度、講評をおこないます。</li> </ul>

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	プレゼンテーション／実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	
---------	--

受講上の留意点等	
JABEE	関連する学習・教育到達目標 : F

科目名	研究ゼミナール4	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	木村 誠		実務経験の有無		○
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-3-410041	経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること			
授業の目的・テーマ	指数的成長技術時代のデジタル戦略4：事業・産業・ライフプランの未来を考える				
内容	<p>デジタル技術を応用した製品・サービスの事例分析と最新の経営理論の融合領域。          数理モデリングソフトウェア（システムダイナミクス、統計解析ソフトウェアR等）を用いたマーケティング効果定量化等の実証研究も可。          研究テーマは各自で選定する          プレゼンテーション2回（中間発表と最終発表）、研究報告書を提出する          (※) 教員は指導はしますが、指示はしません。各自の責任で自由に研究を進めてください。</p>				

学修到達目標	研究方法論を学べる。研究発表ができる。創造性と厳密性の双方の視座をもつことができる。
実務経験との関連性	米国製ソフトウェア販売代理店業務（営業企画推進）の経験を活かし、現状の知見と未来への思考について解説。

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	研究進捗に合わせて指導，資料を配布する。これらの確認作業に2時間を要する。
【復習】時間・内容	研究進捗に合わせて指導，資料を配布する。これらの確認作業に2時間を要する。

成績評価	
評価基準・方法	中間発表（20％）、最終発表（20％）、研究報告書（60％）の総合的評価。 研究報告書の未提出は対象外として評価します。研究報告書は、構成と新規性、厳密性を総合的に評価します。
フィードバック方法	Slackの「help-研究ゼミナール4」チャンネルでインタラクティブに対応する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	研究テーマ，進捗に合わせて指導する。
---------	--------------------

受講上の留意点等	2021年度は募集しない。担当教員の研究分野と研究実績は、次URLで公開。 <a href="https://researchmap.jp/platform">https://researchmap.jp/platform</a>
JABEE	

科目名	研究ゼミナール4	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	藤瀬 武彦		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-3-410041	経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること			
授業の目的・テーマ	<p>本ゼミでは健康スポーツ科学関連の分野について研究指導を行う。その内容は私たち人間にとって最も身近な「身体の組成や機能」に関する研究、「健康体づくり」や「競技スポーツ」に関する研究、さらには私たちの生活に関わる「医療」や「交通」などの問題についての研究にまで及ぶ。この授業では研究目的や研究方法に従って、実験・測定・アンケートによって必要なデータを収集し、統計的手法を用いて分析することなどを行い、最終的に卒業論文を完成させることを目的とする。特に研究ゼミナール4では、データ収集を完了して分析を行うとともに図表を作成する。そして、結果、考察、及びまとめの文章を執筆して卒業論文を完成させる。さらにPowerPointによるプレゼンテーション資料を作成して卒業論文発表会で発表する。</p>				
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究ゼミナール4のガイダンス及び卒業論文執筆要領</li> <li>2) データ収集と文章（緒言、方法、結果）の加筆修正①</li> <li>3) データ収集と文章（緒言、方法、結果）の加筆修正②</li> <li>4) データ収集と文章（緒言、方法、結果）の加筆修正③</li> <li>5) 第1回経過報告会（データを図表に示した資料による）</li> <li>6) データ収集と文章（結果、考察）の加筆修正④</li> <li>7) データ収集と文章（結果、考察）の加筆修正⑤</li> <li>8) 第2回経過報告会の資料作成</li> <li>9) 第2回経過報告会</li> <li>10) 論文の文章全体や書式の修正①</li> <li>11) 論文の文章全体や書式の修正②（提出）</li> <li>12) 発表資料の作成①</li> <li>13) 発表資料の作成②</li> <li>14) 卒業論文発表会</li> <li>15) 卒業論文の要旨の修正と登録</li> </ol>				



学修到達目標	F: 文献考証等をしっかり行い、自己のオリジナルデータを収集し、研究として意義のあるものを追求する。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	データ収集と分析、並びに卒業論文の執筆。各2時間を要する。
【復習】時間・内容	卒業論文の執筆及び発表資料の作成。各2時間を要する。

成績評価	
評価基準・方法	授業中の課題や質疑応答などによる演習点60点（遅刻等による減点あり）及び課題点（レポート等）40点により評価する。
フィードバック方法	質問等があれば時間外でも可能な限り対応する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	特になし。
---------	-------

受講上の留意点等	できる限り遅刻や無断欠席（事前に本人が届を出す）をしないこと、課題の提出期限を厳守すること、卒論のデータ収集や執筆に対して、最後まで諦めないで全力で取り組んでもらいたい。
JABEE	関連する学習・教育到達目標：F

科目名	研究ゼミナール4	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	藤田 晴啓		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-3-410041	経営情報学部A：健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決にあたることができること			
授業の目的・テーマ	<p>上記「関連するディプロマポリシー」より以下の経営学科のディプロマポリシーが本ゼミナールにふさわしいので、以下のとおり修正します  「人間の特性および人間活動、社会環境の理解に基づいた、地域の問題解決を提案・支援・実現できる人材育成」を目標に、以下の目的を設定します</p> <p>1 最新のデータサイエンス・深層学習によりほぼ実物と変わらない合成されたヒトの顔を見たときヒトの認知にはどのような反応があるのか探る  2 地域の課題、特に人口流出に目を向け、その因果関係の解明と解決法について現地のヒトと協力して模索する</p>				
内容	<p>ゼミナールの内容は以下のとおりです</p> <p>卒業研究を以下のうちひとつを選択、あるいは個人的に希望するテーマを教員と個別相談を行い、研究を卒業論文発表会を経て完結する</p> <p>1 人口の顔を生成するディープラーニング（深層学習）を演習し、被験者テストを行いヒトの心理的反応に関する研究  2 その他ホログラム・ディープラーニングに関する研究  3 佐渡・新潟の人口流出課題の原因と解決策に関する研究  4 地域の商業・まちづくりに関する研究  5 ホロレンズとディープラーニング連携による物体検知に関する研究</p> <p>この学期では卒論の考察・参考文献・謝辞・その他を中心に卒論を仕上げます  また、卒論発表会の準備を進め、発表会後は、DB登録を行います</p>				

学修到達目標	データサイエンスにおける社会環境の理解に基づき、深層学習で作成される合成物に対するヒトの反応と行動を解析できる新潟の人口流出問題解決を調査し、現地住民との交流により特殊旅行商品や雇用創生を含めた解決策を提案、情報発信、現地を支援、豊かな集落社会を実現できる
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	ゼミナール生は毎週1ページ程度の卒論原稿を提出することが求められます（予習） 卒論発表会用プレゼンファイルの作成も卒論提出後には求められます これには2時間以上を要します
【復習】時間・内容	ゼミナール生は毎回のゼミナールに指導教員から指導受けた内容で卒論原稿を修正します（復習） 卒論発表会用プレゼンファイルの指導教員から指摘された修正も行います これには2時間以上を要します

成績評価	
評価基準・方法	卒論原稿および発表会用プレゼンファイルの提出とその内容（100%）
フィードバック方法	毎回個人指導を行い執筆した卒論原稿およびプレゼン内容に対しコメントを行う

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	必要に応じて配布します
---------	-------------

<p>受講上の留意点等</p>	<p>自ら考え、行動することを心がけるようにしてください</p>
<p>JABEE</p>	

科目名	研究ゼミナール4	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	山下 功	実務経験の有無		○	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-3-410041	経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること			
授業の目的・テーマ	<p>管理会計と会計情報システムに関する研究 ～会計情報を活用して企業の命を救うことができます～</p>				
内容	<p>このゼミナールでは、管理会計と会計情報システムに関する研究を行います。          管理会計は「経営に役立つ会計」であり、企業の目標を達成するために会計情報を認識、測定、集計、分析、解釈する一連のプロセスです。それゆえ、財務会計が企業外部への報告を目的とするのに対して、管理会計では内部報告目的が重視されます。また、コンピュータの性能と通信技術が発展したことにより、経営情報システムと会計との結びつきが一層強くなっています。</p> <p>「研究ゼミナール1, 2」では管理会計に関する本を輪読し、知識を深めていきます。          「研究ゼミナール3」では卒業論文のテーマを選択し、文献などの調査を行い、執筆を開始します。          「研究ゼミナール4」「卒業論文」では卒業論文の執筆を行い、その成果を卒業論文発表会で発表します。          また、工場見学やゼミ合宿も行う予定です。</p>				

学修到達目標	原価や費用を削減して、企業がより多くの利益(儲け)を得る方法が身につく。 原価や費用の発生源によって、その管理の方法が異なることを理解できる。 会計情報を用いて、企業の業績の良し悪しを測定できる。 会計情報システムの機能や役割を、より深く知ることができる。 経営学だけでなく、技術やものづくりに興味を示すことができる。
実務経験との関連性	上場企業で経理業務・会計情報システム構築などに従事した教員が、実務経験を基に会計・経営について指導します。

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	教科書を事前に読み、要約を作成します。 卒業論文着手後は、卒業論文を作成します。 90分の授業1回当たり、予習と復習を合わせて180分が必要です。
【復習】時間・内容	教科書を事後に読み、理解を深めます。 卒業論文着手後は、指導内容をもとにして卒業論文を修正します。 90分の授業1回当たり、予習と復習を合わせて180分が必要です。

成績評価	
評価基準・方法	「研究ゼミナール1, 2, 3, 4」は、課題レポート50%、報告及び討論50%で評価します。 「卒業論文」は、論文70%、発表会25%、データベース登録5%で評価します。但し、3項目の全てを行った場合のみ、成績評価の対象とします。
フィードバック方法	課題に対して講評を行います。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	上埜進等(2010)『管理会計の基礎 第4版』税務経理協会, ISBN:9784419054595.
---------	--

受講上の留意点等	<p>このゼミナールでは、製造業(ものづくり)に敬意を払える学生を求めています。また、世の中の様々な現象に深く関心を持っている学生を求めています。毎日の通学で見る町並みの移り変わりなどの、身近なことでもいいのです。</p> <p>【卒業後の進路と就職先】 このゼミナールの学びはものづくりと関連が深いため、製造業への就職を推奨しています。 また、会計の知識を直接活かすことができる会計事務所や会計ソフトウェア会社への就職も推奨しています。公認会計士や税理士になる道もあります。 上記以外では、小売業、次いで情報産業への就職実績が多いです。 金融業(銀行、保険、投資等)、総合商社、マスコミなどはあまり推奨していません。また、就職実績も極めて少ないです。 上場企業への就職実績もあります。</p>
JABEE	



科目名	研究ゼミナール4	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	土屋 翔	実務経験の有無		×	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-3-410041	経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること			
授業の目的・テーマ	<p>本研究ゼミナールでは、地域経営を基本として展開していく。発展のために考えられる内容を経営学的視点から考察し、提案、実行していく。 課題発見、解決の能力をあげることを目的とする。 具体的には</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域の現状調査</li> <li>2) 現状を把握した上での改善提案</li> <li>3) 地域主体の一つが企業であることを踏まえ、企業の実データを用いて、企業経営の課題解決に資するデータ分析と改善提案</li> <li>4) より現実的に、持続的に発展するための再考</li> </ol> <p>をスパイラルアップのように何度も繰り返していく。 以上の活動の中で、地域における自身の役割を実感し、地域経営の本質を理解してほしい。</p> <p>基本的に教員が問題を提供し、その問題を学生間で解決する作業が何度もある。 しかし、回を追うごとに、自身で問題発見、解決する力を付けてもらう。</p>				
内容	<p>地域担当や業務担当を決め、活動してもらい、その都度全体で共有していく。</p> <p>研究ゼミナール1、2、3、4と連動しつつも、スパイラルアップを要求する。</p>				

学修到達目標	論理的思考能力や内在的批判精神を養うことができる。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	予習に2時間。
【復習】時間・内容	復習に2時間。

成績評価	
評価基準・方法	成果物（50%）、貢献度（50%）
フィードバック方法	随時PCにて連絡のやり取りを行い、活動のフィードバックを行う。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	特になし。
---------	-------

受講上の留意点等	<p>可能であるならば、Instagramで@t.c.y.laboを見てほしい。 他にも、研究室にこれまでの活動報告書があるので、必ずどちらかを見てほしい。 積極的に行動することが求められる。</p>
JABEE	